

令和5年度  
学校評価アンケート  
集計結果

令和6年 2月

集計実施：情報システム部

## 令和5年度 学校評価アンケート集計結果分析・考察

### 1 回収率

表1 令和5年度の全体の回収率

	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	平成元年度
生徒	97.8%	94.7%	96.5%	97.3%	96.3%
保護者	84.7%	83.0%	78.5%	82.9%	85.0%

表2 学年ごとの回収率

	全体集計			1年			2年			3年		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
生徒	100	89.5	97.8	100	90.0	97.5	100	89.5	97.1	100	97.3	98.7
保護者	100	69.2	84.7	100	77.5	93.8	100	74.4	84.8	86.8	69.2	75.3

本校は平成21年4月、仙台商業高等学校と仙台女子商業高等学校が統合、新しく仙台市立仙台商業高等学校として開校し、15年が経過しようとしている。今回の分析結果が現在の「仙台市立仙台商業高等学校」を考えていく上で基本的なものになるととらえて今年度の分析を進めていきたい。

なお、回答総数は、生徒916（男子381、女子535）、保護者794（男子生徒の保護者328、女子生徒の保護者466）である。

### 2 集計方法

設問内容については、13年前から生徒用のものに、「ボランティア活動への参加」に関する質問項目を追加している。なお、男女共学にとまなう変化についても読み取れるよう配慮した。

生徒用は設問1から18までの項目、保護者用は1から17までの項目に対してA・B・C・D・無回答の順に回答数とその回答率（%）を集計し、さらに100%積み上げ横棒形式のグラフに置き換えて集計表示した。

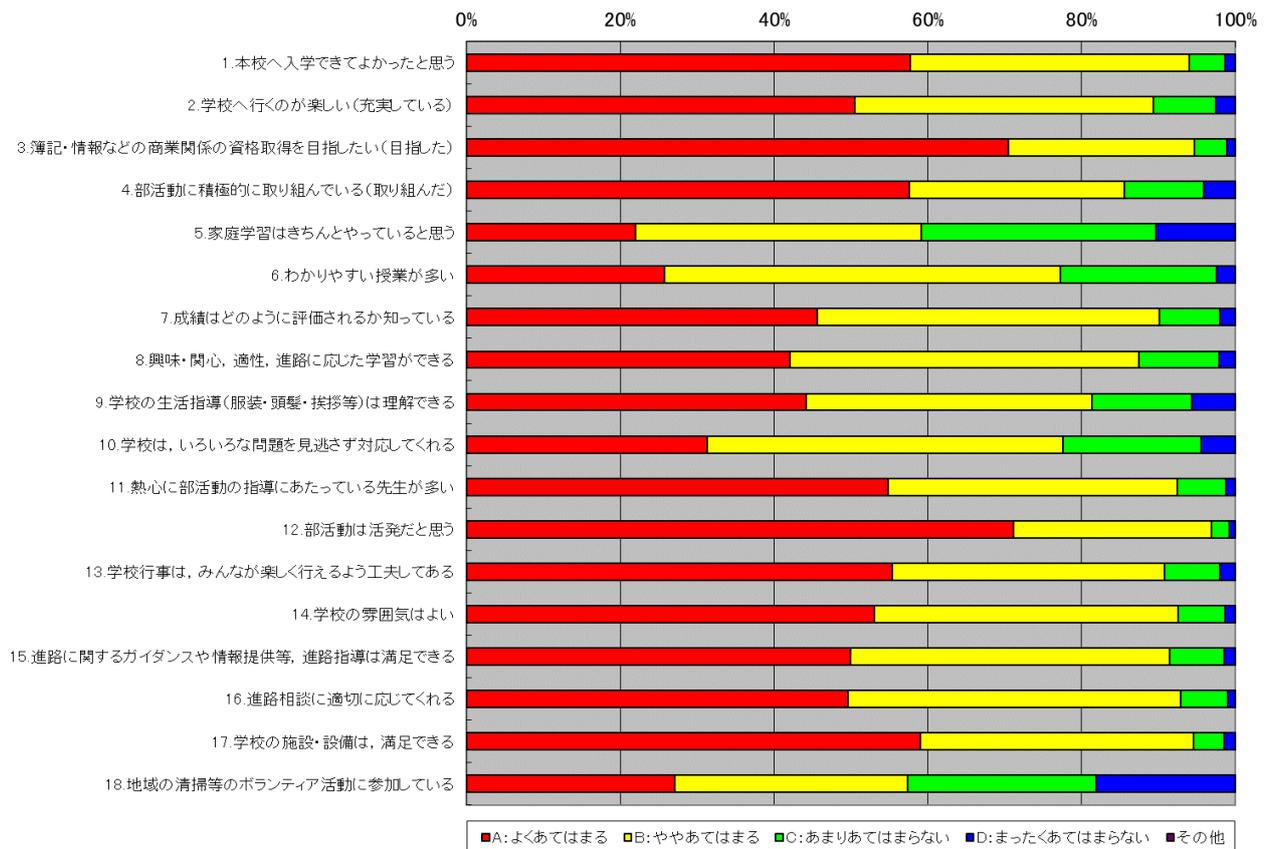
設問の最後には自由記述欄を設けて、設問項目に対する意見や項目以外に対する提言及び感想を記入してもらっている。

- (1) 横棒表示は生徒毎、保護者毎、教員毎に作成。
- (2) 回答内容と回答数は全体、学年別に作成。
- (3) 自由記述欄は、記述された文言を忠実に羅列集計。

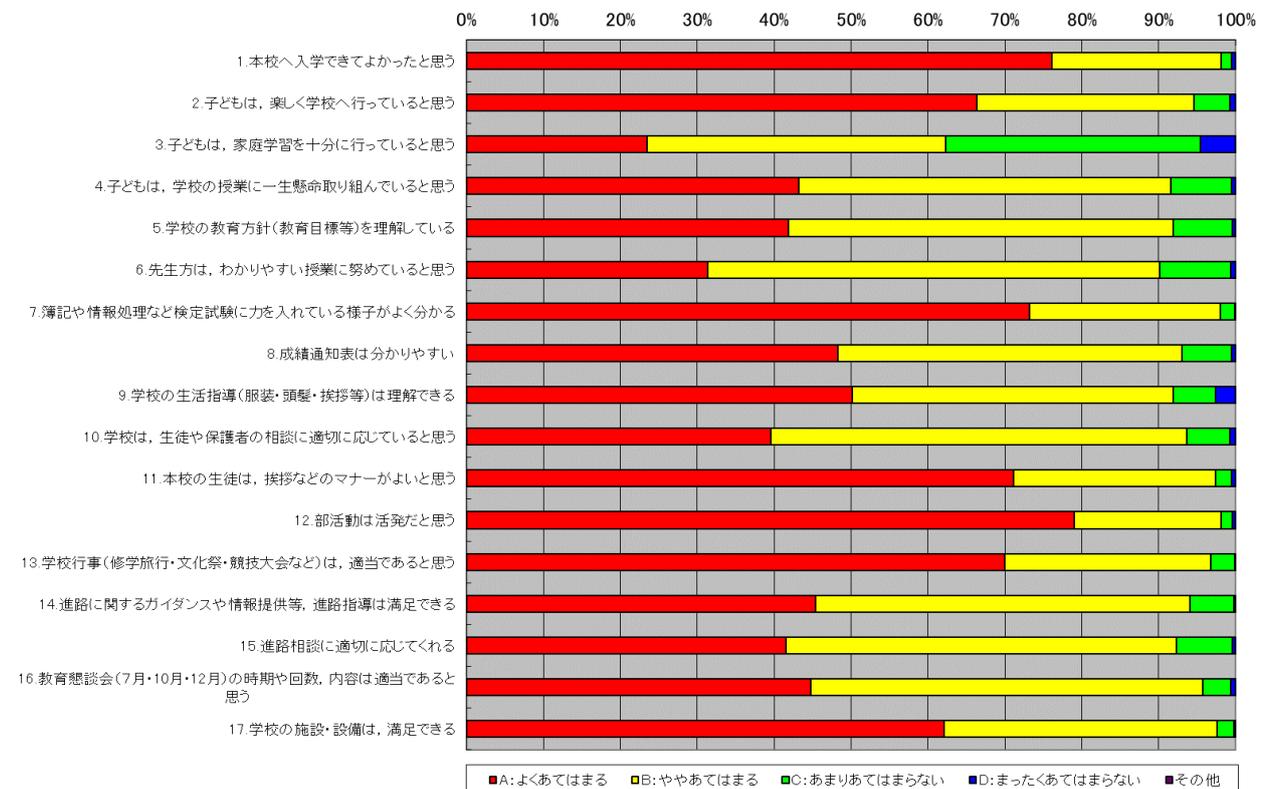
### 3 公表範囲

- (1) 仙台市教育委員会に概要を報告
- (2) 学校運営協議会に概要を提示
- (3) 学校のホームページに概要を掲載・公表

## 令和5年度 学校評価アンケート（生徒対象）



## 令和5年度 学校評価アンケート（保護者対象）



## 【集計結果】

集計の数字として用いている（ ）内の％は、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の合計を使っている。割合が高い数字はアンケート項目中上位から、割合が低い数字はアンケート項目中下位から順に並べたものである。

### ◎生徒の割合が高い項目（18項目中10項目が90%以上）

- (1) 本校へ入学できてよかったと思う (94.0%)
- (2) 簿記・情報などの商業関係の資格取得を目指したい(94.7%)
- (3) 成績はどのように評価されるか知っている (90.1%)
- (4) 熱心に部活動の指導にあたっている先生が多い(92.5%)
- (5) 部活動は活発だと思う (96.8%)
- (6) 学校行事は、みんなが楽しく行えるよう工夫してある (90.7%)
- (7) 学校の雰囲気はよい(92.6%)
- (8) 進路に関するガイダンスや情報提供等、進路指導は満足できる (91.5%)
- (9) 進路相談に適切に応じてくれる (92.9%)
- (10) 学校の施設・設備は、満足できる (94.5%)

### ◎保護者の割合が高い項目（17項目中16項目が90%以上）

- (1) 本校へ入学できてよかったと思う(98.1%)
- (2) 子どもは、楽しく学校へ行っていると思う(94.8%)
- (3) 子どもは、学校の授業に一生懸命取り組んでいると思う(91.6%)
- (4) 学校の教育方針（教育目標等）を理解している(91.9%)
- (5) 先生方は、わかりやすい授業に努めていると思う(90.2%)
- (6) 簿記や情報処理など検定試験に力を入れている様子がよく分かる(98.0%)
- (7) 成績通知表は分かりやすい(93.1%)
- (8) 学校の生活指導（服装・頭髪・挨拶等）は理解できる(91.9%)
- (9) 学校は、生徒や保護者の相談に適切に応じていると思う(93.7%)
- (10) 本校の生徒は、挨拶などのマナーがよいと思う(97.4%)
- (11) 部活動は活発だと思う(98.1%)
- (12) 学校行事（修学旅行・文化祭・競技大会など）は、適当であると思う(96.7%)
- (13) 進路に関するガイダンスや情報提供等、進路指導は満足できる(94.1%)
- (14) 進路相談に適切に応じてくれる(92.3%)
- (15) 教育懇談会（7月・10月・12月）の時期や回数、内容は適当であると思う(95.7%)
- (16) 学校の施設・設備は、満足できる(97.6%)

### ◎生徒の割合が低い項目 \*70%未満のもの

- (1) 家庭学習をきちんとしている(46.0%)
- (2) ボランティア活動に参加している(57.4%)

### ◎保護者の割合が低い項目 \*70%未満のもの

- (1) 家庭学習をきちんとしている(62.3%)

### ◎生徒と保護者両方の割合が高い項目

- (1) 入学できて（させて）良かった（生徒 94.0% 保護者 98.1%）
- (2) 簿記・情報などの商業関係の資格取得を目指したい(生徒 94.7% 保護者 98.0%)
- (3) 部活動は活発だと思う(生徒 96.8% 保護者 98.1%)

- (4) 学校行事は、みんなが楽しく行えるよう工夫してある(生徒 90.7% 保護者 96.8%)
- (5) 進路に関するガイダンスや情報提供等、進路指導は満足できる(生徒 91.5% 保護者 94.1%)
- (6) 進路相談に適切に応じてくれる(生徒 92.9% 保護者 92.3%)
- (7) 学校の施設・設備は、満足できる(生徒 94.5% 保護者 97.6%)

◎生徒と保護者両方が低い項目

- (1) 家庭学習をきちんとしている(生徒 46.0% 保護者 62.3%)

◎生徒と保護者の割合に差が大きい項目

- (1) わかりやすい授業(に努めている)が多い(生徒 77.2% 保護者 90.2%)
- (2) 家庭学習をきちんとしている(生徒 46.0% 保護者 62.3%)
- (3) 学校の生活指導は理解できる(生徒 81.3% 保護者 91.9%)

◎生徒のみの質問

- (1) 学校の雰囲気が良い(92.6%)
- (2) 熱心に部活動の指導にあたっている先生が多い(92.5%)
- (3) ボランティア活動に参加している(57.4%)

◎保護者のみの質問

- (1) 生徒の挨拶等マナーが良い(97.4%)
- (2) 教育懇談会の時期や回数・内容は適当である(95.7%)
- (3) 成績通知票は分かりやすい(93.1%)

◎学年によって回答率が大きく違う項目 \*上位と下位で約10%の差があるもの

<生徒>

- (1) 家庭学習はきちんとやっている (1年 62.2% 2年 53.7% 3年 61.5%)  
(1年男子 60.5%、2年男子 57.7%、3年男子 61.5%)  
(1年女子 63.3%、2年女子 50.0%、3年女子 60.3%)
- (2) 学校の生活指導は理解できる (1年 86.2%、2年 82.0%、3年 75.7%)  
(1年男子 88.7%、2年男子 88.7%、3年男子 82.6%)  
(1年女子 84.6%、2年女子 75.9%、3年女子 71.4%)
- (3) いろいろな問題に対応してくれる (1年 84.9% 2年 75.3% 3年 72.0%)  
(1年男子 87.9%、2年男子 80.3%、3年男子 75.7%)  
(1年女子 83.0%、2年女子 70.9%、3年女子 69.8%)

◎男女差の大きい項目

<生徒> \*学年の上位と下位で約10%以上の差があるもの

- (1) わかりやすい授業が多い (1年 79.5% 2年 76.0% 3年 76.0%)  
(1年男子 87.9%、2年男子 82.4%、3年男子 80.9%)  
(1年女子 73.9%、2年女子 70.3%、3年女子 73.0%)
- (2) 学校の生活指導は理解できる (1年 86.2%、2年 82.0%、3年 75.7%)  
(1年男子 88.7%、2年男子 88.7%、3年男子 82.6%)  
(1年女子 84.6%、2年女子 75.9%、3年女子 71.4%)
- (3) ボランティア活動に参加している (1年 58.7% 2年 54.0% 3年 59.5%)  
(1年男子 69.4%、2年男子 61.3%、3年男子 62.6%)  
(1年女子 51.6%、2年女子 47.5%、3年女子 57.7%)

<保護者>

なし

## 【分析・考察】

### 1 学校に対する全体的な印象

2 ページの図を昨年度のものと比較すると、今年は生徒の「よくあてはまる」「ややあてはまる」がほぼすべての項目で上昇し、保護者の「よくあてはまる」「ややあてはまる」は17項目中16項目という結果となった。今年度はコロナウイルス感染症のため、抑制されていた様々な行事がすべて実施できたことで、「学校行事は適当である」という設問も昨年よりも上昇した。「本校へ入学できてよかった」との回答が全体では94%を超え、1年生全体が96.2%、2年生が93.0%、3年生が92.8%で、昨年よりも増加し好評価となっており、多くの生徒が満足感を感じながら登校しているが伺える結果となった。

保護者からは昨年度同様98%以上が「入学できてよかった」という回答を得ている。また、「学校へ行くのが楽しい(充実している)」とする項目に関しては昨年度までと比較すると、横ばい傾向が見られる。生徒は1年生が最も高く(91.3%)、2年生(88.6%)、3年生(88.5%)となっているが、保護者は学年に関係なく92%を超えている。以下に目的意識、学習意欲、生活意識、進路意識に項目を分けて分析するが、これらの割合が高いことから、第一段階として生徒に対しての学校としての教育活動が効果的に行い易いということを暗示している。これは、コロナ禍からのアフターコロナへの転換期である今年度の教育活動全般が順調に動きだしたあらわれであり、とくに学校行事もすべて実施されてきたことも要因として挙げられる。

### 2 目的意識

「簿記・情報などの商業関係の資格取得を目指したい(目指した)」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で94.7%(昨年度より+0.8ポイント)となった。内訳は、1年生が97.4%(昨年度より+1.3ポイント)、2年生が95.7%(昨年度より+0.6ポイント)、3年生が90.8%(昨年度より+0.1ポイント)となった。どの学年も90%を超える結果となった。全学年で改善傾向にはあるものの、1年生・2年生は、「在学中により多くの資格を取り、進路等に活かしていく。」という学校の目標を理解しながらも、積極的に取り組んでいく意識が薄いように感じられる。向上心を持ち資格取得ができるように指導をしていく必要がある。その反面、現3年生は、昨年の2年次の時も「資格を取っておきたい。」という意識が高かった。そのことが、いま現在も継続していると考えられる。その結果、本校商業科の掲げている「全商1級3種目以上の合格者を100名以上」という数値目標を現時点で達成をし、200名以上を輩出する勢いに繋がっている。他学年にも波及効果を生むように資格取得の必要性と取得に対する意欲の喚起に努めていかなければならないと考える。

「部活動に積極的に取り組んでいる(取り組んだ)」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で85.6%(昨年度より+4.0ポイント)となった。今年度5月より新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、活動の制限が緩和されたことを受け、部活動に取り組む意識に改善が見られた。部活動は、学校を活気づける一つの要因になると考えられる。部活動を通して育まれる人間性や目標に向かって継続して努力することは、学習においても良い影響をあたえるも

のである。内訳を見てみると、1年生が90.1%（昨年度より+5.3ポイント）、2年生が83.3%（昨年度より+5.9ポイント）、3年生が83.2%（昨年度より+0.6ポイント）となり、全体的には改善傾向と学年間での差が生じる結果となった。

保護者において、「簿記や情報処理などの検定試験に力を入れている様子がよく分かる。」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で98.0%（昨年度より+1.2ポイント）となった。内訳は、1年生が96.7%（昨年度より+0.9ポイント）、2年生が98.9%（昨年度より+2.5ポイント）、3年生が98.7%（昨年度より+0.4ポイント）となった。どの学年も、95%以上を超える結果となった。その中で、現3年生は、昨年の2年次の時と同様に生徒・保護者とも高い数値が残され、同じような意識であることが示された。

「部活動は活発だと思う」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で98.1%（昨年度+1.3ポイント）になった。内訳は、1年生が98.3%（昨年度より+0.2ポイント）、2年生が98.1%（昨年度より+2.3ポイント）、3年生が97.8%（昨年度より+1.5ポイント）となった。この項目も95%以上を超える結果とはなったが、各学年でポイントが減少したことは残念である。生徒・保護者とも「商業関係の資格取得」、「部活動への取り組み」に関しては、学校が目指す方向性を理解したうえで同じ方向に向かっていると考えられる。

### 3 学習意欲

「家庭学習はきちんとやっている」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で59.2%（昨年度から+17.2ポイント）となった。内訳は1年生が62.2%（昨年度より+24.7ポイント）、2年生が53.7%（昨年度より+10.5ポイント）、3年生が61.5%（昨年度より+16.0ポイント）となった。学年によってポイントに差はあるものの、全学年において昨年度より10ポイント以上の上昇が見られた。しかしながら、他の項目における「よくあてはまる」「ややあてはまる」の回答は、概ね7～8割を超えているのに対し、家庭学習については、5～6割程度に止まっており、更なる対策が必要である。みやぎ学力状況調査の結果（1・2年生）においても、家庭学習についての回答は、「宿題・課題のあるときと定期考査前」もしくは、「定期考査前」の回答が上位を占めた。また、家庭学習をする上での悩みについての回答は、「家庭学習に集中できない」、「家庭学習と部活動の両立が難しい」であり、日常生活の中で、「部活動と家庭学習の両立を目指しているが家庭学習に集中できない生徒」が多く存在することが浮き彫りになっている。また、スマートフォン・携帯電話の平均使用時間（平日）は、1年生が175分、2年生が193分となっており、休日はそれぞれ246分、267分と多くなる傾向にある。主としてSNSや動画サイトの利用が大半を占めており、家庭学習に集中できない要因と考えられる。

保護者において、「子どもは家庭学習を十分に行っている」の項目に「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で62.3%（昨年度より+15.1ポイント）となった。内訳は、1年生が59.3%（昨年度より+12.9ポイント）、2年生が64.1%（昨年度より+17.9ポイント）、3年生が64.2%（昨年度より+14.8ポイント）となった。保護者においても、生徒と同様の分析傾向となった。目的意識での「資格取得を目指している・目指した」との回答と密接につながり、どの学年においても資格取得を目指すには、家庭学習が不可欠であると同時に、学習習慣や基礎学力向上が必要である。そのためには、日々の授業や朝学習に対する姿勢など、学習の積み重ねが重要であり、ひいては大学進学や就職といった進路実現につながることを生徒に自覚させるとともに教員側も教科で工夫を重ね、家庭の協力をえて、生徒が主体的に学習に取り組むよう指導していかなければならない。

「わかりやすい授業が多い」との項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で 77.2% (昨年度より+7.9 ポイント) となった。1 年生 79.5%、2 年生 76.0%、3 年生 76.0% (昨年度は 1 年生 74.5%、2 年生 62.8%、3 年生 70.8%) となった。1 年生は、昨年度より+5.0 ポイント、2 年生は+13.2 ポイント、3 年生は+5.2 ポイントとなった。また、みやぎ学力状況調査の結果分析より、「ほとんどの授業が良く理解できる」「理解できる授業の方が多い」と回答したものは、昨年度の 1 年生から今年度の 2 年生にかけては、69.3%→54.0% (昨年度より-15.3 ポイント) となった。学年進行でより学習が高度化していく中、授業が理解できず、家庭学習を含めた自己学習の意欲が低下している要因となっているのではないかと推察する。特に、数学や商業科目において、生徒が理解しにくくなっていることが予想されるので教員側が実態をよく理解し、授業の工夫や学習資料の充実をしていく必要があると考える。教員側も現職教育である「校内公開研究授業」の実施や、わかりやすい授業を目標とした教材研究等を通じ、今後も授業力向上を図り、生徒の学力向上に努めていかなければならないと考える。

保護者において、「わかりやすい授業が多い」との項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で 90.2% (昨年度より+3.9 ポイント) となった。1 年生 88.3%、2 年生 93.1%、3 年生 89.2% (昨年度は 1 年生 89.3%、2 年生 82.8%、3 年生 86.6%) となった。残念ながら、どの学年においても生徒と保護者の差が大きい項目となった。上記に示したように学校公開や情報発信を適時に行うとともに更なる教員側の研鑽が必要となってきている。

「成績はどのように評価されるか知っている」の項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で 90.1% (昨年度より+3.8 ポイント) となった。学年別では 1 年生 93.3%、2 年生 88.7%、3 年生 88.2% (昨年度は 1 年生 90.4%、2 年生 83.7%、3 年生 84.8%) となった。1・2 年生は新教育課程の実施に合わせて、観点別学習評価の記録を通知表に表示し、学習及び指導の改善に生かしている。学習内容の把握と観点別評価において、考査の結果だけでなく、日々の授業の積み重ねが評価につながっていることを生徒が実感したものと推察できる。年度初めの最初の授業において、教科担当が学習の手引きを使って、学習内容や評価方法を説明したものの、まだ十分に理解していない生徒もいると推察される。今後もさらなる学習の評価について、観点別評価を深化させ、定着を図りたい。

#### 4 生活意識

学校生活に関わる生徒への質問として、設問 9、10、11、12、13 について分析する。前年度 (令和 4 年度) と比較して、ポイントの上昇が多くみられる結果となった。

設問 9【学校の生活指導 (服装・頭髪・挨拶等) は理解できる】生徒 81.3% (+10.1 ポイント) 保護者 91.9% (+3.1%) となった。昨年度から、頭髪服装の規定の中で男子のツーブロックについては改定し、以前に比べ男子の頭髪についての指導は減少した。しかし、女子の服装・頭髪・化粧等の指導については、増加傾向にある。特に、化粧については学年関係なくひどい状況になってきた。今後も家庭との連携を大切にしながら、全職員で生活指導を行っていききたい。

設問 10【学校は、いろいろな問題を見逃さず対応してくれる】生徒 80.2% (+11.1 ポイント) 保護者 93.7% (+5.4%) となった。今年度は人間関係のトラブルなども含め、問題行動が発生している。なかなか悩みを言い出せない生徒も多いため、面談やアンケート調査を通し実態把握に努めたり、日頃の生活を観察したりして、生徒の変化を見逃さないようにしていきたい。

設問 11【熱心に部活動の指導にあたっている先生が多い】生徒 92.5% (+0.1 ポイント) となっ

た。各部活動顧問の先生方には、放課後はできるだけ生徒と一緒に活動していただき、生徒の変容を評価していただきたい。部活動を通して、失敗する経験や成功体験を多く積ませたい。

設問 11【本校の生徒は、挨拶などのマナーがよいと思う】保護者 97.4% (+2.3 ポイント) となった。練習試合等で本校に来校される保護者の方々から、生徒の挨拶やマナーについてお褒めの言葉をいただくことが多い。しかし、登下校時のマナーに関する苦情等が多いことも事実であり、校内外問わず、もう少し仙商生としての自覚と誇りをもって行動させたい。

設問 12【部活動は活発だと思う】生徒 96.9% (+0.9 ポイント) 保護者 98.1% (+1.3 ポイント) となった。

多くの部で活発に活動している結果だと考える。県の上位入賞、東北大会、全国大会出場など、多くの部で実績も上がっている。本校は勝利至上ではなく、部活動の活性化を図りながら人間力の向上を目指し、社会人として即戦力となるような人材の育成を目指している。人間力を高めながら、打倒私学を掲げて取り組んでいきたい。

設問 13【学校行事は、みんなが楽しく行えるよう工夫してある】生徒 90.7% (+9.2 ポイント) となった。昨年度までは、制限のかかった学校行事がほとんどだったため、生徒は物足りなさを感じたと思う。しかし、今年度は、多くの笑顔が見られた学校行事となった。しかし、行事の度に頭髪や化粧等の指導を行わなければならない状況であり、来年度に向けての課題となった。

設問 13【学校行事（修学旅行・文化祭・競技大会など）は、適当であると思う】保護者 96.7% (+3.1 ポイント) となった。今年度の行事については、ほぼコロナ前のかたちに戻しての開催となり、特に文化祭では多くの来場者が訪れ大盛況で終えることができた。来年度は、地域との連携をさらに深められるような取り組みを行っていきたい。

## 5 進路意識

進路関係項目は「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の割合が、生徒設問 15 で 91.5% (+2.2) ・設問 16 で 92.9% (+1.1)、保護者設問 14 で 94.1% (+7.4) ・設問 15 で 92.3% (+4.3) でともに令和4年度よりも高くなった。この理由としては、学年ごとの進路ガイダンスを従来通りに戻して実施したことや、2・3年生は保護者とともに進路について考える機会を設定したことが大きな要因と考えられる。また、放課後を利用した資料頒布会や学校説明会を開催し進路に関する意識を喚起したことも、少なからず良い効果をもたらしたと思われる。今後も高校卒業後の進路実現へ向けて、早い時期から進路意識を高めさせるための具体的な指導に取り組むことを目標に、進路情報の的確な提示をする。そして、生徒の興味関心を喚起し、それぞれの進路について真剣に考え行動できるような進路指導をすすめていきたい。

## 6 男女差の大きい項目について

生徒の回答で、男女間で 11.8%と最も大きな開きが見られた項目は、質問項目 18 「地域の清掃等のボランティア活動に参加している」で「よくあてはまる」・「ややあてはまる」の合計は男子 64.3%、女子 52.5%であった。この項目については特 1・2年生の男女間の差が大きかった（1年生：男子 69.4%、女子 51.6% 2年生：男子 61.3%、女子に 47.5%）。3年生では3%位の差しかないが1・2年生の各差が大きいため男女間に格差（男子 64.3%、女子 52.5%）があらわれた。これは、2年ぶりに泉区一斉清掃が11月に実施されたが部活動単位で行っているため、土曜日に部活動を行っていない部活動に女子が多く所属していることが要因に挙げられる。

次に質問項目6「わかりやすい授業が多い」では、「よくあてはまる」・「ややあてはまる」は男子 83.7%、女子 72.5%で男女間の差は 11.2%であった。昨年度は男子 68.9%、女子 69.7%であり大きな差が無かったが、今年度は昨年と比べ女子が約 3%小さな伸びに留まったのに対して、男子が約 15%の大きな伸びを示した。これは、先生方がわかりやすい授業を実践しようとしているあらわれでないかと思う。他の質問項目で男女間の差が大きかったのは質問項目2「学校の生活指導は理解できる」の「よくあてはまる」・「ややあてはまる」で男子 86.9%、女子 77.4%で男女間の差は 9.5%であった。この質問項目では特に2・3年生の女子(2年 75.9%3年 71.4%)の評価が低かった。これについては確たる原因を見出すことができないが今後、注視していかなければならない状況であると思われる。

## 7 その他

全体を通してみると、生徒の回収率は先生方の協力もあり概ね良好であった。保護者の回収率が学年進行で下がる傾向はかわらなかったが、全体としては保護者の回収率が昨年度よりは上昇した。しかし、3年生の一部のクラスの回収率が70%を下回った。

卒業後の進路決定に際して、生徒・保護者・学校との関わり方が濃くなるはずであり、学校に対する関心を高く持って欲しいところであり、このような傾向にあることは、学校への関心や意識が薄れていっているのか、本調査に対しての期待感の薄れがあるのか、または、それ以外に理由があるのか定かではないが、今後の課題と言えそうである。

保護者および生徒からの自由記述欄では、多数の建設的なご意見やご要望等をいただいた。今回のアンケートの分析結果を活用するとともに、さらに充実した学校生活の構築に向け、教職員一同努力してまいりたい。今後も本校の更なる発展のために、忌憚のないご意見をいただきたい。